

▲ 中国河南省文物考古研究所との共同研究

奈文研と中国河南省文物考古研究所は、2000年度から5カ年計画で鞏義市きやうぎに所在する唐三彩窯及び出土品に関する共同研究を実施しています。昨年度は、



鞏義市黄冶窯出土唐三彩

将来の発掘調査に備え、窯跡の分布調査・窯跡周辺の地形測量を実施しました。また相互研鑽を目的とした研究員交流も行なっています。

本年度の大きな事業は、これまで試掘調査や踏査で発見されている唐三彩を一冊の図録にまとめることと最近新しく見つかった唐三彩の窯跡の試掘、そして鞏義唐三彩に関するこれまでの研究成果の公開です。10月の末には平城・藤原両調査部のメンバーが中心となり、図録作成のための遺物観察と撮影に出かけました。中国版図録は本年度末に、日本版は2002年度に出版します。

11月の後半には、中国から孫新民所長他4名の研究者をお招きし、22日には、孫所長と陳彦堂副研究員に講演をお願いしました。一般の方々にも聞いて頂く予定でしたが、来日の確定が遅かったため、やむなく近在の研究者約30名にお集まり頂き実施しました。孫所長には鞏義唐三彩の研究成果を、陳氏には唐三彩が生まれる前提となった漢代多彩陶器に関する最新の研究成果をお話し頂きました。

(埋蔵文化財センター)